



「いじり」と「いじめ」の間で・・・

12月3日 全校集会の開催と全クラスでの話し合いを実施

今回、年度計画の予定を変更し、各クラスで生徒の人権にかかわる問題について話し合いを持つことになりました。いきさつは、最近本校の生徒たちの間で、特定の生徒をあげてネタにして、場を和ませたり楽しい気分を盛り上げたりすること(いわゆる「いじり」)がエスカレートして、傷ついたり憤慨している人が出て来つつあるのでは？ということなんです。このことを問題視する声が、生徒や教員の間でちらほらと上がってきており、「何とかしなくては！」と奮い立った生徒会のメンバーを中心に問題提起がなされたという訳です。その日の朝の教職員の会議の中で生徒会担当の原先生の方から全体に趣旨説明がなされ、教職員が共通理解をもって生徒を指導していくことになりました。そして午後の最初の授業で全校集会を行ない、その中で生徒会三役から全校生徒に向けて、「いじりがエスカレートしていく中で傷ついている人がいる！」というメッセージを伝え、各クラスに持ち帰って、みんなでじっくり考えてみて欲しいと訴えました。5時間目の時間を急遽 LHR に充てて、まず担任教員から各学級に本校の現状説明と問題提起を再度行い、クラスの生徒たちの率直な意見や考え、想いを引き出していくことから始めました。

生徒たちの声

- ・最初は相手も笑っていたので、言ってもいいんだと勝手に誤解していました。でもそれは「常に」ではなく、ケースバイケースで、相手の気持ち次第でいじめにつながることもあるんだと思いました。
- ・「いじめ」と「いじり」の境界線ははっきりわからないということが分かりました。でもそれがどちらになるのかということは、相手がどう受け止めるかという事なので、自分の判断でやってはいけないことだと思いました。
- ・暴力とか、威圧とか、無理強いとか、悪意があつてのいじめはすぐにわかるし誰もが良くないと分かることだけど、楽しい雰囲気求めて誰かのことをネタにするのはいけないことだと思った。とくに習慣化しエスカレートしやすいので、自分が知らないうちに人を傷つけるいじめになっていたりするんだと考えたらちょっと怖くなった。
- ・こういう言葉を使ったら「いじめ」だよ、とか明確な基準があるわけじゃないし、自分でもあまり意識しないまま言葉を選ばずに声をかけているのじゃないかと反省した。これからはもっと考えて、言葉を吟味して使い、相手の気持ちになって声掛けができるようにしていきたいと思った。
- ・何か言ったりやったりしてから反省しても意味がないと思った。その前の「意識」や「感覚」を磨くことが大事ではないだろうか。

人権啓発ポスターの作成

今回の話し合いを通じて生徒の皆さんが実感した、「相手の身になって考えることができる心の柔軟性を育てる」「人の辛い気持ちをいち早く察する繊細な感性を持つ」ことの大切さを何か形に表せないか？ということで、生徒会でポスターを作ってクラスに掲示することを提案しました。線描だけの下絵だけにとどめて、後はクラスのみんなが思い思いの色を塗って完成させることで、全校生徒が自ら参加し考えたという証にしたいとの意図が込められています。